

巻頭言



道北の資源を活かそう

(社)日本技術士会北海道支部 道北技術士会 代表幹事
技術士（建設／総合技術監理部門）

菅野 哲朗

地方経済の疲弊が継続し地域間格差が広がり、地方再生や都市再生理念のもと地方の自立・活性化が求められ大きな転換期を迎えています。

このような情勢下で地域を活性化させるには、地域の資源や特性を知り、今後の情勢変化予測からの確にニーズを捉え、他地域に対する優位性をもって技術開発や産業活動を進める必要がある。

先日、本州から友人が遊びに来て美瑛方面にドライブに行った時、「本州は曲がった道ばかりで真直ぐで広い道が無いんだよね」と言ってすごく感動していた。地元に住んでいる者には当たり前のことであるが、よそからみれば魅力的であったりする。

道北には、他地域に無いすばらしい資源がある。

旭川から稚内へ向かい高速道路に乗ると、まず一面に上川盆地の黄色く色づいた水田地帯が広がり、和寒付近では、丘陵地の畑作地帯を地表に沿って縫うような景観になっていて、まさに畑の中を走っているような感覚。

美深を過ぎ、水田が無くなり畑作地帯へ、やがて林業が盛んな音威子府、牛や羊が戯れる牧草地帯となり漁業・水産加工が盛んな港町稚内に着く。

道北には他にも、日本海側には島々が浮かぶ海原・湿原・漁港・風力発電風車群、また、ヨーロッパ的畑作丘陵地帯の景観などで人気のある美瑛・富良野地域、どれも日本とは思えない環境・景観である。

一方では、交流人口を増やす取組も進められ、行

動展示という新しい発想でから全国的に大ブレイクした旭山動物園、全国から高校生が集まり周辺地域を舞台に競い合う東川の写真甲子園、涼しい夏の気候を活かした士別などのスポーツ合宿勧誘などがある。

さらに、技術開発として上川農業試験場などが研究開発した道産米の評価向上、林産試験場の開発した技術などによるカラマツ建材の需要が増加するなどうれしい話題もある。

このように、積雪寒冷地である道北地域は、農林水産業や観光産業などを中心に優位性があり、近年石油・天然ガスで好景気になったサハリンと近いこともあり、すばらしい可能性をもった地域である。

この資源を活かすべく、食品加工などの素材付加価値化や積雪寒冷地技術の開発など、我々技術士を含めて地域全体が試されており、それぞれの力を結集して最大限の力を注ぐべきである。

それには、①産官学交流の活性化②人材の育成・蓄積③地域間の交流などが課題となる。

この中で、道北地域として優先すべきは農林水産業などの資源を活かすことができる人材育成・蓄積であり、教育機関からの地元就職を含め連動した仕組みを地域戦略としてどのようにするか、産官学の協働により速やかに進めるべきである。

そうした中、技術士としては、その使命から地域の活性化に向けて先陣的な役割を果たし、それぞれの立場から積極的な対応を求められている。